

ボブベックのやさしい投資信託

第26回 株式型投資信託のリスク その2

今回もシステム型ファンドとアクティブ型ファンドの違いに焦点を当てて解説します。

(7-a)株式型ファンド - アクティブ型とシステム型ファンド

システム型ファンドの特徴

長所 - システム型ファンドは人間の判断を交えず、愚直に、設定時に定められた運用手法を続けます。その結果、長期で見るとそれなりのパフォーマンスとなる事が多いようです。人間の判断は優れているようでいて、実は一貫性が無く、また感情によって左右されやすいという特徴があります。しかしながら、システム型であれば、「ここで買い」という判断が出れば、必ず買わなければなりません。人間の判断だと、「まだ下がるのではないか。」と迷うところでも、迷わず買います。その結果、割安な水準で株式を購入できたり、逆に割高な水準で株式を売却する事が出来るのです。

短所 - システム型ファンドの場合、短期的に悪いパフォーマンスが続く事もよくあります。株式市場というのは生き物です。割高な状態が数年続いたり、逆に割安な銘柄が、割安なまま放置されつづける事が良くあるのです。しかしシステム型ファンドは、そんな事はお構いなしに、「買い」と判断すれば買いますし、「売り」と判断すれば売却するのです。その結果、数年間、冴えないパフォーマンスが続く事だっているのです。それを我慢できれば良いのですが、大抵の場合は、「やはり、このシステム運用は間違っていたんだ。」と判断して、ファンドを売却してしまいがちです。また投資家が我慢できても、運用会社のほうが我慢できなくなって、運用方針を変更してしまう事だっているのです。

システム型ファンドの例(1) - インデックス型ファンドはシステム型ファンドの代表例です。インデックス型と言っても、日経

平均 225 種に連動させるファンドや T O P I X に連動させるファンドのように、日本の株式市場全体をあらわしたインデックスを対象にしたファンドだけではなく、業種別インデックスなどのように、特定の業種や産業を対象にしたものなど、様々な種類があります。

システム型ファンドの例(2) - 低位株ファンドといわれるファンドは、非常に分かりやすいシステムファンドの例といえましょう。低位というのは株価が低いということの意味します。つまり、その会社の業績に関わらず、株価の安い銘柄を購入するのです。株価の低い銘柄は、率で考えると株価の値動きが大きいのです。その結果、株価の上昇期には他のファンドでは考えられないほど、勢い良く上昇します。しかし、下落時にも、勢い良く下落するという特徴があるのです。そのうえ、株価が低いという事は業績が低迷しているわけですから、中には倒産してしまう会社だってあるでしょう。そういう意味では非常にリスクが高いファンドだと言う認識が必要です。

システム型ファンドの例(3) - 低 P E R ファンドまたは、他の指標を使って割安な銘柄を購入する目的のファンドです。P E R とは、一株当りの利益に対して、その何倍まで株価が買われているかを示す指標です。これが低いと言う事は業績に対して株価が割安な事を示します。

注) P E R とは Price Earning Ratio の略で、日本語では株価収益率と訳されます。

株価 ÷ 一株当り当期利益

または

時価総額 ÷ 当期利益

で計算出来ます。株価が利益の何倍で取引されているのかを示す事から、この数値が高ければ、株価は割高、低ければ株価は割安と判断されます。しかし、株価と言うのは将来の利益を予想して動きます。つまり将来利益が増加するのであれば、現在の利益に対して割高でも株価は上がりますし、逆に将来利益が減ると考えられれば、利益に対して割安、つまり P E R が低くても株価は下がっていく事もあるのです。割安だ

から株価は将来上昇するとは限らないので
す。